

1. 研修プログラムの目標と特徴

岩手県内の形成外科設置病院は、岩手医科大学附属病院と県立病院では当院と中部、久慈、宮古病院、そのほか2、3の民間病院のみとなっています。

当院は岩手の研修病院群のなかでも数少ない形成外科設置病院ですので、他院では経験できない、顔面外傷、切断指再接着、皮膚軟部組織腫瘍、皮膚軟部組織欠損の再建、褥瘡や創傷治療などについて、最新の知見にもとづいた診療が経験できます。

また当院の形成外科は、岩手医科大学について症例数が多く、岩手医大以外では、県内で唯一日本形成外科学会の研修認定病院になっていることから、当院で専門医を取得することも可能です。

2. 形成外科専門医取得までの道のり

形成外科学会に入会後かつ2年間の初期研修終了後



4年間認定施設か教育関連施設(当院)で研修

- ① 直接手術に関与した300症例の一覧表
- ② 直接手術に関与した20症例の図を伴う症例記録
- ③ 術者として手術を行った10症例の所定の病歴要約
- ④ 日本形成外科学会主催の講習会(学術研修会あるいはインストラクショナル・コース)受講証明書を4枚以上有すること。



専門医試験(筆記試験・口頭試問)

3. 研修内容

(1) 研修プログラムの目標

GIO : 形成外科研修医は医療チームの一員として医療に参画し、「先天性あるいは後天性の主に身体外表の醜状と機能障害を外科的手段により治療し、個人を社会に適合させる」という形成外科の基本的な知識、技能を習得する。

SBOs : 1. 一般的診察能力

- 1) 病歴: 形成外科の患者の特異性を十分に認識した上で、先天異常では母親の妊娠歴、疾患、服薬、遺伝的疾患、環境要因について、外傷では受傷機転の詳細について、腫瘍では発症から受診までの経過について聴取でき、各疾患の一般的な治療法について説明できる。
- 2) 診察: 一般的診察、病変部の診察を正確かつ要領よく行える。病変部の情報をカラー写真、X線、CT、MRI等を適切に選択して記録できる(術前後)。
- 3) 診断: 形成外科診察と検査結果に基づいて、診断を下しその治療法の概要を理解できる。患者を全人的にとらえ、患者およびその家族との良好な人間関係を確立することができる。

2. 形成外科的診療能力

1) 形成外科手術に必要な器具

メス、フック、剪刀、鑷子、鉗子、吸引器、電気メス、縫合材料、採皮器具について、その特徴、目的、使用法を理解し、使用することができる。

2) 形成外科に必要な基本手術手技

次にあげる各手技について概念、方法、適応などを理解し、行うことができる。a) 皮膚表面形成術、b) 縫縮術、c) Z形成術、d) W形成術、e) 分割切除術、f) 皮膚伸展法、g) 組織移植術(植皮術、採皮法、脂肪移植、粘膜移植、筋肉・筋膜移植、神経移植、植毛、骨・軟骨移植)、h) マイクロサージャリー

3. 疾患別診療能力

- 1) 形成外科的な皮膚切開・縫合法の要点を理解し、指導医の下に実施できる。
- 2) 顔面外傷の診断に必要な検査法と治療の要点を理解し、指導医の下に実施できる。
- 3) 熱傷の診断と治療を理解し、初期治療に参加できる。

- 4) 代表的皮膚・軟部組織腫瘍の診断と治療法を説明し、指導医の下に実施できる。
- 5) 代表的的外表先天異常についての informed consent の要点を理解した上で説明ができ、その手術を指導医の下に実施できる。
- 6) 手の外科に必要な一般的知識を身につけ、種々の治療法を実施できる。
- 7) 創の状態に応じた創処置を理解し、創治癒に必要な手技を実施できる。

(2) 形成外科的な疾患と治療法

下記の疾患や病態について、その診断と治療に参加する。

1) 熱傷	10) 顎骨変形症
2) 顔面外傷 (含顔面骨骨折)	11) 組織欠損に対する形成外科的再建法 (植皮術、皮弁法、乳房再建法)
3) 皮膚良性腫瘍	
4) 皮膚悪性腫瘍	12) 手の外科 (手の先天異常、切断指等)
5) 褥瘡	
6) 難治性皮膚潰瘍	13) その他の顔面先天異常 (小耳症、眼瞼下垂症等)
7) 肥厚性瘢痕・ケロイド	
8) 頭蓋骨縫合早期癒合症	14) その他の外表変形 (漏斗胸等)
9) 唇裂・口蓋裂	

4. 週間日程

9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00

月	← 外 来 →	← 手 術 →	← 回 診 →
火	← 外 来 →	← 手 術 →	← 回 診 →
水	← 外 来 →	← 手 術 →	← 回 診 → ← 抄読会 →
木	← 回 診 →	← 手 術 →	← 手 術 → ← カンファランス →
金	← 外 来 →	← 手 術 →	← 回 診 →

(上記スケジュールはあくまで目安であり、変更となる場合がある。)

5. 研修内容・方法

指導医のもと、外来では実際に診察を行いながら診断・治療方針決定の考え方を学び、治療方針の説明、術後経過の説明を通して患者との良好な人間関係構築の手法を習得する。

病棟では指導医とともに数名の入院患者を受け持ち、診察を行い必要な術前検査の計画と実施、手術計画の立案、術前検討会でのプレゼンテーション、患者とその家族への説明、術者あるいは助手としての手術への参加、術後の病状説明、管理、形成外科的創処置、退院後の生活指導等に携わり形成外科的疾患の診断、治療の流れを経験、理解する。

さらに指導医とともに救急呼び出しに応じ、顔面外傷、手の外傷、熱傷等の救急医療を学ぶ。

6. 研修評価

研修終了時に、EPOCを用いて指導医と研修医で目標の到達状況等について評価を行う。

7. 指導責任者・研修指導医・スタッフ

指導医 上級医名	役職	卒業年	資格など	臨床研 修指導 医
本庄 省五 (ほんじょうしろうご)	副院長兼形成外科 長兼感染管理室長	1980 年	日本形成外科学会 形成外科専門医 皮膚腫瘍外科指 導専門医 日本創傷外科学会 専門医 日本褥瘡学会 認定医 岩手医科大学 客員教授 医学博士	

8. 2015 年実績

入院手術総件数 168 件(全身麻酔 81 腰麻・伝達麻酔 0 局所麻酔・その他 87)

外来手術総件数 476 件(全身麻酔 0 腰麻・伝達麻酔 0 局所麻酔・その他 476)

9. その他

《勤務時間》

原則として朝8時 30 分から 17 時までであるが、手術が長引いた場合、急患等の場合
この限りではない。

《研修する上での留意点》

形成外科の患者は表出している変形はもとより、それに伴う精神的苦悩が大きいことが多いので、患者
に対する言動・態度には十分な配慮が必要である。